

自己評価票（2階）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域との係わり合いを大切にしており、当事業所の理念の中にすでに取り込まれている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基礎とした目標を年一回決定している。その目標達成に近づくための具体策と実行期間を決め、評価している。平成20年度は「一つ屋根の下、私たちも共に暮らそう」	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や見学に来られた方々へ理念や、方針を説明させて頂いている。	○ 今後は地域運営推進会議などで、地域の方々により広く理念を理解して頂けるような工夫をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方々への挨拶等を意識的に行うように努めている。またほっこり庵で行われる行事には声をかけさせて頂いたり、ビラを配らせて頂いたり、回覧板でお知らせをさせて頂いたりしている。	○ 行事以外でも気軽に立ち寄って頂けるような工夫をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地藏盆のお手伝い、ボーリング大会、商店街のお祭り、運動会、避難訓練、商店街の掃除、葵祭りのお手伝いなど出来る限り参加させて頂いている。	このまま継続して地域活動に参加し、さらに交流を深めて行きたい。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域運営推進会議等を通じて、地域住民の方々の意見を取り入れるよう努めたり、認知症サポーター養成講座等を開催し、地域の高齢者等がよりよく暮らせるよう努めている。		今以上に、地域へ貢献できるような活動を職員間で話し合い実行していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を受けることにより、職員一同が自分達を見直すことが出来ている。課題に関しては、少しずつ改善に向けて取り組んでいる。	○	申し送りの時間等も利用し、常に問題、課題を見出して改善に向けた取り組みが出来るようにして行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告し、意見をしていただける時間も設けている。頂いた意見は運営会議などで報告し職員全員に意識付け出来るようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当が時々来所されたり、電話連絡も頻回に行われたりしている。講師等の依頼があったりすると極力協力するよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内の全体研修で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について講師を招き職員は研修を受けたことがあるが、現在それらについてはご家族などから相談はない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の現場、申し送りや会議の際に、話し合いをしている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を元に説明させて頂き、理解納得して頂けるまでお話をさせて頂いている。また、不明な点などがあれば随時お答えさせて頂ける事もお伝えさせて頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様からのご要望、苦情等は職員全員が把握できるよう、朝の申し送りや適宜申し送り、スタッフルームに掲示し早期解決できるよう努めている。また、施設長や管理者には必ず報告するようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	地域運営推進会議や、面会時に日々のご様子をお伝えさせて頂いている。また、何かあったときにもすぐに電話でお知らせさせて頂いている。その他職員の異動などについては、ほっこり庵だより等でお知らせさせて頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ポストの設置や苦情受付窓口の掲示を情報提供表に記載し、ご説明させて頂いている。苦情があった場合には施設長、管理者をはじめ早期解決に向け、運営会議、申し送り等で報告し再発防止に努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、申し送りなど体制をとっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	昼食前・夕食前・就寝前など重点的に入居者様が安心して安全に過ごせるよう職員配置を考慮し実行している。また、急遽受診の予定が入ったりした場合にも勤務変更等を行い、対応している。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は極力避けてはいるが、異動が発生した場合には、混乱などが起きないように最小の人数にて対応している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に管理者が必要に応じて職員のレベルに合わせ、段階的に研修を受けるように手配。他にも研修に自主的に参加できる体制をとっており、研修の案内があればスタッフルームに掲示、受けた研修があれば申告するようにしている。又、法人内で2ヶ月に1回全体研修会を開催し参加を促している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年9月には、在宅ケアを支える診療所全国ネットワーク京都大会の役員・ボランティアとして参加できる機会を設けている。演題発表も行っている。サポートリーダー養成研修にも、講師等で参加している。法人内の勉強会ははじめ全体研修を定期的に行い、同業者と交流する場を設けている。。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談を設けている。また親睦会など年に数回設け役職関係なく何でも話せる関係に作りにつとめている。又希望休や連休もとりのしやすいよう配慮している。3,4ヶ月に一度は3～4連休を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回自己評価をしており、各人目標などを立てその目標達成の為の助言などしている。得意分野で活動する事により自信をもって仕事ができるようにと考えている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に自宅に伺って少しでも落ち着いて話せる環境の中で、ご本人から直接ご意見を聞いたり、選択しやすい簡単な質問形式にて行っている。またご本人のみならず、ご家族からもご意見を頂いて、これまでの暮らし、環境の把握に努めている。		家族の協力を得て、センター方式の一部を書いているが、もっと活用したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人同様、担当ケアマネを始めとする関係各者と協力しながら、何度も面接する機会を持ち、入所前・入所後に想定される問題を共有し、信頼関係作りに努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを傾聴することはもちろん、その時のサービス利用担当者とも連絡を密に取り、問題を少しでも軽減できるよう支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族との相談の機会を何度も設けている。本人が自宅で使われていた馴染みの物(家具や食器等)を用意してもらい、在宅の延長線のような雰囲気作りをしている。		ショートステイ等のお試し入所(1階では行った。)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者との関わりの中で、本人のことを知り、出来る事はしていただき、出来ないことは協力し、支えあっている。過去・現在において、得意なことを気持ち良くしていただける働きかけを心掛けている。	○	重度化の中で、一方的な関係になりがちなので、できること・できないことを見極める力を養い、職員間で情報を共有する。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会時や電話にて、日々の暮らしを報告したり、月一回ほっこり庵便りを作成する事で情報を共有できるよう努めている。又、利用者が必要としているものを用意してもらったり、通院・散髪・気分転換の外出をしてもらえるよう働きかけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前・直後は特に話し合いを重ね、センター方式も一部活用し、問題点があれば共有し、より良い関係作りに努めている。家族が会いに来たくなるような雰囲気作りを今以上に心掛けている。送り火鑑賞会、クリスマス会、餅つき大会など、家族参加型の企画を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙等を頂く方には近況報告をしたり、年賀状など季節の便りを送っている。馴染みの美容室、喫茶店等、利用して頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴の方・コミュニケーション能力の低下された方も多いため、スタッフが橋渡しをしている。他利用者のお箸配りやお茶付け等してもらっている。	○	他入居者との関係にストレスを感じておられる方もおり、今以上に傾聴していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状など季節のお便りを出している。	○	看取りの場合、その後の家族の精神的ケア…少しでも力になればと思う。これまでの暮らしをアルバムにまとめて渡したい。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○印 (取組んでいき たい項目)	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		センター方式シートをもっと活用し、ケアに活かしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		期間に応じた見直しは充分とは言えないが、多くの利用者が入所期間の長期化する中で、重度化しており、ケアプランでは対応しきれないほど、日々、身心の変化が見られる場合がある。その都度関係者で話し合い、文章化し伝達している。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や申し送り等で、情報を共有するだけでなく、連絡ノートや生活記録には、介護者の思いを書く欄を設け、活用している。	○	介護者の思い、気づきを書く欄をもっと活用したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、看取りも行っている。 法人内、他事業所のイベントに参加することもある。空室がある場合はショートステイとして緊急でご利用先を探しておられる方にご利用して頂いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の祭り・行事や、月一回の地元商店街の清掃活動に参加。消防署の協力で半年に一回避難訓練を行っている。近隣の方々に、夏祭り、クリスマス会や餅つき大会等に参加して頂いている。フラワーアレンジメント・書道教室等開催している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリ・歯者・皮膚科往診、通院等、本人のニーズに合わせて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	二ヶ月に一回、運営推進会議を行っている。又、センターとの協働で、認知症の啓蒙活動にも、参加している。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一週間に二回の往診、特変時には、その都度連絡を取り、臨時往診をしてもらっている。整形外科など、入居以前からの馴染みの病院を利用して頂いている方もいる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設者自身が医師であり、認知症に理解が深い。また、必要に応じて外部の認知症専門医の診察を受けている。受診だけではなく、往診して頂けるような関係、体制を作っている。実際、当施設にて診て頂き、相談にのって頂いている。専門家を講師とした研修会にも参加している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設長が看護職である。又、訪問看護事業所より、最低週一回、看護師が来ている。特変時にも24時間対応でき、その都度、来庵。医療的なことも気軽に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は、面会を重ねながら病院関係者とも情報交換し、家族を交えて今後のことを話し合っている。退院後安心して施設で過ごせるよう、医療面も含め、全面的バックアップ体制をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に差し掛かった場合、Dr・ご家族・スタッフで担当医等と繰り返し話し合い、ご本人やご家族の思いの確認を行い、方針を共有している。また、ムンテラ報告書を作成し全員で共有している。ターミナルケアについての勉強会や、外部研修に参加している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアに関わる全てのスタッフが情報を共有できるように、連絡を密に取り合い努めている。又、担当医より、個々の病状について、その都度、情報提供があり、勉強会も行っている。	○	チーム間の、申し送りの充実・連携の強化。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	この1年で別の居所へ移り住む例は無いが、過去に退去された方に関して言えば、十分な話し合いや情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応が充分でない場合がある。デリケートな話題の場合は、イニシャルを用いたり、トイレの声掛けはさりげなくしている。個人情報の取り扱いは説明の上、承諾を頂いている。	○	日々の意見交換や、研修・勉強会への参加等で、老いや認知症への理解をより深めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思い、希望などを少しでも出してもらえようゆっくり話したり、筆談したり、同じ目線に近づいて支援できるよう心掛けている。	○	上記と同じで、老いや認知症への理解をより深め、本人が思いを出しやすい関わりをもっとできるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り希望に沿って支援は行っているが、他者の対応等のため希望に添えない場合もある。その際は、職員間でその場その場で協力し合い、優先すべきことを判断している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	可能な方は希望する服を選んでもらっている。馴染みの美容室へ行っていただくが、体調により外出困難な方は、出張で来てもらっている。外出時はエレガンスの手伝いをしている。重度化されていく方でも、その人らしい身だしなみやおしゃれをして欲しい想いを忘れず心掛けている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化対応のため外部の調理業者に委託しているが、味噌汁は作っている。簡単な調理や、箸配り、お茶付け、下膳等はある方にはしてもらっている。本人の希望に応じて献立を変えたりアレンジしたりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望するおやつ等、個別に欲しいものを一緒に買いに行く。いつ訴えがあってもすぐに提供できるよう、常にストックして対応している方もいる。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を作成し、個々のパターンを把握できるよう努めている。シグナルキャッチや声掛けにて排泄支援を行っている。本人に負担の無いよう、食事・腹部マッサージ・下剤の細かい調整等で排泄コントロールを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯はほぼ決まっている。利用者の身体レベルや体調を考慮しながら、できる限り希望に沿えるよう努めている。個人のペースに合わせたマンツーマン入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調を考慮して臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に応じて、貼り絵や将棋等の楽しみをして頂いたり、テレビ・新聞を楽しんで頂けるよう支援している。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、本人希望により、買い物して頂くも、大半の方がお金に対する理解が困難になっているため、施設で管理している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人、ご家族の希望に沿って、買い物やドライブ、散歩、水やり等を行えるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、花見や紅葉ドライブ外出を楽しんで頂いている。家族との外出も積極的に支援している。		重度化のため、全員での外出は困難となっているが、個々のニーズに合わせて対応して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけて頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	365日24時間訪問できるよう支援している。訪問の際には、お茶をご用意し、日頃の様子を積極的に伝え、交流をはかっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、入居者の転倒等のリスクを伴う状況になった際に、身体拘束をするケアにならないよう、その都度、話し合っている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置しておらず、入居者が自由に入り出されている。日中、玄関の施錠はしていない。転落防止のため、居室の窓が全開にならないよう、鍵が付いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の思いに配慮しながら、プライバシーと安全面のバランスを考え、臨機応変に対応している。スタッフ間の連携・声かけ・記録・申し送り等で、安全に過ごして頂けるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の認知レベルの変化に応じて、臨機応変に対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の申し送り・記録により、入居者情報の共有をし、臨機応変に対応している。アクシデント・インシデントレポートの活用。避難訓練の実施。事故防止委員会を法人内に設置している。	○	アクシデント・インシデント発生後は、早急にスタッフ全員で分析を行い、同じことを繰り返さないようケアに生かしたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員に周知徹底しており、運営会議の中でも適宜テーマとしている。また、二年前に普通救命講習を行ったが、本年も受講予定となっている。		一人でも多くの職員が自主的に、講習に参加できるよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練計画を策定し、定期的に訓練を行っている（地域の消防署と連携して、半年に一度避難訓練をしている。また施設単独でも訓練を行っている）近隣の方には、非常時の応援をお願いできるよう、地域運営推進会議にて協力を要請している。地域の消防署と連携して、半年に一度避難訓練をしている。また施設単独でも訓練を行っている。	○	夜間帯や近隣住民も参加する形での避難訓練を行いたい。

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入所時はもちろん、その都度、家族・主治医・介護スタッフでカンファレンスを行い、今後のリスクについて話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、記録だけでなく、異変の際は、その都度バイタルチェック・様子観察し、主治医と連携し、情報の共有をしている。医療的な知識を身につけるための、勉強会・研修会に参加している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬リストを作り、一人一人の薬について(効用・副作用など)、スタッフ全員が把握できるよう努めている。特に薬変更時には、申し送りだけでなく、薬剤説明書に全員が目を通し、確認印を押すようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別に排泄表を作り、記録・申し送りし、スタッフ全員が把握できるようにしている。主治医と連携し、こまめな服薬調整、排泄を促すための食事、水分摂取に気を使い、腹部マッサージなど行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前を中心に口腔ケアを行っているが、認知レベルの低下で、拒否される方もおり、精神的負担を考え、困難な方もいる。必要に応じて、訪問歯科を利用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事・水分量を毎日記録し、申し送り、一人一人の体調管理をしている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種（入居者・スタッフ）、肺炎球菌予防接種（入居者）を実施している。感染予防委員会を中心に、勉強会を行ったり、資料の配布をして、情報の共有に努めている。職員やその家族が感染症を発症した場合は、速やかに伝達できるよう、法人内に連絡網が作られている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使い捨ての手袋を使用、まな板は食材に応じて交換している。食器類の温風殺菌。塩素系消毒。ふきん・三角コーナー等は、毎日塩素系消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植物が多く、玄関周りに季節の花を植えたり、木造で温かみのある外観をしている。また季節の行事（クリスマス・正月等）に応じて飾り付けをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花により季節感を取り入れたり、壁に入居者の作品やスナップを飾っている。中庭には、桜・椿・もみじを植え、四季折々で楽しめるようにしている。灯籠などを設置して、日本庭園風の落ち着いた空間を作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかに過ごせるように、テレビ周りにソファを配置している。フロア全体に椅子を配置し、いつでも個々に利用して頂けるようにしている。		

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、使い慣れた物などを持ってきて頂き、在宅生活の延長線になるべく近づくように、居心地の良い空間作りをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の換気。湿温度計をチェックして、その都度、冷暖房の調整を行って。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりだけでなく、ソファや家具を伝え歩きしやすいように配置している。段差解消のためにスロープを設置している部屋もある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋の表札、トイレの看板等、設置している。個々に合わせて、馴染みの食器、使いやすい食器(色・形)を使用している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には季節の草木(桜・椿・もみじ等)があり、また日本庭園風の落ち着いた空間を作っている。外周りの花壇には季節の草花、玄関先のツクバイにも季節の花を飾っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームほっこり庵(2階)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

6年、7年と入居年数の長い方が多くを占める中、心身レベルの重度化が進み、介護度4・5の方が、大半を占めるようになっていく。そんな中、昨年は、ほっこり庵全体で三名の方の看取りをさせて頂いた。どんな状態になられても、人としての尊厳を保持し、ほっこり庵で穏やかに過ごして頂けるよう、本人・家族・主治医・ケアスタッフ等…一人の入居者に関わるあらゆる人々が、何度も話し合いを重ね、連携し、実践して来ている。医療法人であるという特色を生かし、本人・ご家族の思いにできる限り添うことのできる、医療連携を実現している点が強みである。この一年のテーマは「一つ屋根の下、私たちも共に暮らそう」だった。泣いたり、笑ったり、壁にぶつかることも多々あるが、いつも入居者やご家族の笑顔…「ありがとう」の言葉に救われて、日々を共に過ごしている。